

東北文教大学・東北文教大学短期大学部 図書館報

発行 東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館

〒990-2316 山形市片谷地515 ☎023-688-7544

目次

- ページの向こうの聖地へー本と映画から始まる旅ー…………… 1
- 教員の本棚から…………… 3
- 私のおすすめ本…………… 3
- 令和6年度 図書館報告 …………… 4

ページの向こうの聖地へー本と映画から始まる旅ー

人間関係学科 教授 澤 恩 嬉

「思い立ったらすぐ動く」そんな自分の性格を、最近ではやっと受け入れられるようになってきました。昔から、ちょっと気になるとすぐに試してみたくなる。“ミーハー”気質で、はまりやすく飽きやすい。夫や息子たちにはよく「また突然始まった」と呆れられ、時には振り回してしまうこともあるのですが、そんな私の性分を知って、笑って付き合ってくれる家族には本当に感謝しています。

そんな私の「旅」の始まりは、たいてい本や映画です。最近では「聖地巡礼」という言葉が広く知られるようになり、アニメや映画、小説の舞台を訪れる旅のスタイルとして、若い世代にも親しまれています。私自身、この言葉に出会う前から、無意識のうちに“聖地”への憧れを持っていたように思います。

たとえば、ふと本屋で手に取ったガイドブック。ページをめくっているうちに、まるでその街を歩いているかのような気分になって、「ここ、行きたい」となり、気がつくときケット検索を始めている。そんなことが日常茶飯事です。

でも現実には、すぐに旅に出られるわけではありません。予定や予算など、さまざまな事情があります。そんな時でも、本を読んだりガイドブックを眺めたりすることで、私は小さな旅を楽しんでいます。「この路地を歩いてみたい」「このカフェ、絶対好き」そんな妄想をしながら、何冊ものガイドブックが本棚に並んでいくのです。

私が日本に興味を持ち、日本語を学び始めたのは、高校生の頃のことです。ひらがな、カタカナ、

漢字と格闘しながらも、次第に日本語の世界の奥深さに惹かれていきました。言葉を学ぶということは、その言語を話す人々の価値観や文化を学ぶことでもあります。そこで私が最初に目指したのは、「日本人なら誰もが一度は読んだことのある名作を読むこと」でした。

『坊っちゃん』『こころ』『伊豆の踊子』『雪国』といった、日本人なら学生時代に通る文学の定番を一つひとつ丁寧に読み進めていきました。

日本の古典や近代文学は、時に難解で、語彙や文体に苦戦しましたが、その苦労の先にある物語の奥行きや、人間の心の機微に触れる喜びは、何物にも代えがたいものでした。日本語を通して文学と出会い、文学を通して日本を知る。この二重の学びが、私の日本語学習に広がりを与えてくれたのです。

そして、物語に描かれた場所を実際に訪れてみたいという気持ちが、自然と生まれてきました。

川端康成の『雪国』は、私が日本語学習の中で最も印象深く読んだ作品のひとつです。あの有名な冒頭「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」を読んだとき、私はまだ日本に来たことがありませんでしたが、その一文だけで雪に包まれた雪国の風景が目の前に広がるようでした。日本に留学し、ついに実現した越後湯沢への旅は、まさに感動の連続でした。上越新幹線が長い清水トンネルを抜けた瞬間、物語と現実が重なり合った不思議な感覚を味わいました。

日本語の教科書で読んだ『伊豆の踊子』の舞台と

なった伊豆半島では、踊り子と学生が歩いた道を実際にたどってみました。伊豆の美しい自然の中を歩きながら、作品に描かれた淡い恋心と旅の情緒を肌で感じることができました。

松山の道後温泉も忘れられない場所のひとつです。夏目漱石の『坊っちゃん』の舞台として知られる温泉街は、文学的な雰囲気を残しつつ、観光地としても活気がありました。あの道後温泉本館を目にした時には、まるでそこだけ時間が止まっているかのような堂々とした佇まいで、一気に物語の中に惹き込まれた感覚になりました。「漱石はこの二階で温泉街を見下ろしながら『坊っちゃん』を書いたのだろうか」と想像を巡らせながら本館の中を見学したことを覚えています。

映画もまた、旅への衝動を引き起こす大きなきっかけになります。中学生の頃、原作の『風と共に去りぬ』を夢中で読んで、広大なアメリカ南部の風景に想いを馳せました。その後に観た映画で、ヴィヴィアン・リー演じるスカーレット・オハラが溢れる美しさに見惚れ、アトランタの街並みやタラの農園は、現実の風景として私の心に残りました。「いつか、自分の目で見てみたい」その憧れは、今も変わらず私の中にあります。

そして、もうひとつ忘れられない作品が『ティファニーで朝食を』。オードリー・ヘプバーンがホリーを演じ、ニューヨークの朝にティファニーの前でクロワッサンをかじるあのシーン。社会人になってから偶然あの映画を観て、すぐに「五番街を歩きたい!」と思い立ち、実際にニューヨークを訪れました。映画と同じティファニー本店の有名な青いショーウィンドウの前に立った時、さすがにパンをかじる勇気はありませんでしたが、現実の雑踏の中に映画のワンシーンが重なって見え、ほんの少し、物語の中に入り込めたような気がしました。

現在、私は塩野七生さんの『ローマ人の物語』を読み進めています。きっかけは、ある有名人がSNSで『ローマ人の物語』について熱く語っているのを目にしたことでした。その投稿に触発されて、思わず大学の図書館から1巻目を借りてきたのです。最初は韓国語訳で出会ったこの作品を、いつか原書(日本語)で全巻を読み直したいと思っていました。

学生の頃、私は世界史の授業があまり得意ではありませんでした。王朝の名前や年号を覚えることが中心で、どうしても「誰かの物語」として感じられなかったのです。でも、大人になってから、読み物として歴史に触れるようになると、それがまるで長編小説のように面白く感じられるようになりました。

『ローマ人の物語』は、古代ローマの建国から滅亡までを描いた全15巻の大作です。紀元前8世紀から5世紀に至るまでの歴史が、政治・経済・軍事・文化の多角的な視点から丁寧に描かれています。単なる歴史書ではなく、物語としてもとても読みごた

えのある作品です。

私は今、『ローマ人の物語』を日本語で全巻読了したらローマに行く決めてしています。物語で描かれた古代ローマの政治や軍事、そしてそこに生きた人々の知恵と情熱の跡を、この目で確かめたいのです。特に訪れてみたいのは、フォロ・ロマーノです。ここは古代ローマ時代の中心地で、元老院や神殿、バシリカなど、政治・宗教・商業の中心施設が密集していた場所です。カエサルが演説を行い、アウグストゥスが改革を進めたその舞台に、自分の足で立ってみたい。物語でしか知らなかった場所を実際に歩く体験は、私にとってまさに巡礼そのものです。

そしてもうひとつ、スペイン階段でジェラートを食べる。こちらは映画『ローマの休日』の影響ですが(笑)。オードリー・ヘプバーン演じるアン王女が自由を満喫する姿に憧れた人も多いはず。私にとってローマは、壮大な歴史とロマンティックな映画という二つの物語が重なり合う、夢のような都市なのです。

本を読むことは、単なる情報収集にとどまりません。物語に登場する街の風景を想像したり、登場人物の気持ちに共感したり、その土地の文化や歴史を考えたりすることで、まだ行ったことのない場所が頭の中で少しずつ形になってくるのです。旅行前に買うガイドブック、旅先でたまたま入った本屋さんでの出会い、旅行中に読む小説、それらが旅の体験をより豊かにしてくれます。にぎやかな観光地を歩いたあとに、静かなカフェでページをめくる時間。そんな瞬間に、単なる旅人ではなく、その土地に溶け込んでいる感覚になるのです。

旅先で読んだことで特別な意味を持った本もありますし、本に導かれて目的地を決めたこともあります。たとえば、ある時は地元の書店でふと見かけた小さな町の特集記事が載った旅行雑誌に惹かれ、何気なく週末の行き先をそこに決めたこともありました。

読書が苦手な人には、無理におすすめはしません。でも、本屋や図書館を歩いてみてください。表紙やタイトルに惹かれた一冊を、ぱらぱらとめくってみてください。それだけで、ちょっとした旅が始まるかもしれません。図書館も、今ではとてもおしゃれで過ごしやすい空間になってきています。レストランやカフェが併設されていたり、静かに景色が眺められたり。私たちの東北文教大学の図書館も、窓から見える山形の四季がとても美しく、ゆったりとした時間を過ごせる場所です。お気に入りの図書館を見つけて、そこで過ごす時間を大切に。そんな読書の楽しみ方も素敵だと思います。

旅と本と映画。どれも私にとって、思い立った時にすぐ行動したくなる大切なきっかけです。ページの向こう側に広がる世界へ、ふらっと出かけてみませんか？

『子どもは善悪をどのように理解するのか？ 道徳性発達の探究』

長谷川真里 著 ちとせプレス 2018.2.16 (376.11/ハセ 1 F 子ども・教育保育)

皆さんは、子どもが「良い・悪い」をわきまえて行動するようになるのは、何歳頃だと思いますか？

私は保育所にお邪魔して、1～2歳の子どもたちの様子を観察しています。このくらいの年齢の子どもたちは、周りにいる友だちへの関心が高まり、「同じことをして遊びたい!」という気持ちがどんどん育ってくる時期です。そのため、おもちゃの取り合いなど、ちょっとしたトラブルもよく見られます。たとえば、2歳の子がおもちゃを取られそうになって「ダメー! ○○ちゃんの!」と必死に声で訴えたり、お友だちのおもちゃをこっそり取ってニコッと笑って逃げていたり…。一方で、おもちゃを取られた子が、相手の子をじっと恨めしそうに見つめていたりすることもあります。そうしたやりとりを見ていると、たった1～2年しか生きていない小さな子どもたちでも、「楽しい」「悲しい」といったシンプルな感情だけでは語れない、もっと複雑な心の世界を生きているのだと感じます。

今回ご紹介する本は、そんな子どもたちの「良い・悪い」の理解について、心理学の研究をもとにやさしく解き明かしてくれる一冊です。この本によると、1歳までの赤ちゃんでも、相手を助けたり邪魔をしたりする人の「意図」を見分けて、「良い・悪い」を判断することができる力があるそうです。まだ言葉を話せない赤ちゃんにそんな力があるなんて…と思うかもしれませんが、どのような実験で明らかにされているのかも、この本の中で説明されています。とはいえ、「良い・悪い」を判断できることと、実際に「良い行いをしよう」と行動することは、また別の話。この本では、子どもたちが日々の生活の中でルールを学び、守ったり破ったりしながら、さまざまな感情を経験して、少しずつ自分なりの「道徳観」を身につけていく発達の過程が、わかりやすい言葉で解説されています。

子どもたちと関わっていて、子どものちょっとした行動に「何か大事な意味があるかもしれない」と感じたことはありませんか？ そんなときにこそ、この本のように、心理学の実証的な研究にもとづいて子どもの発達をひもといてくれる本から、新たな視点や考え方が得られるはずですよ。そして、そのような本に出会うと、きっと保育や教育の現場での実践が、もっと楽しく、もっと深くなるのではないかと思います。自分の世界を広げてくれるような一冊に、ぜひ出合ってみてください。



図書館学生アルバイトの「私のおすすめ本」

人間関係学科 1年 池田 朱里

『吉原手引草』

松井今朝子 著 幻冬舎 2007.3 (913.6/マツ 1 F 一般書架)

みなさんは「吉原」について知っていますか？ 「吉原」とは江戸時代に遊郭として栄えた場所です。最近では大河ドラマの舞台として登場するなど、昔から様々な作品の舞台として使われることが多いです。

私のおすすめする「吉原手引草」も題名の通り、吉原を舞台とした小説です。吉原一の花魁、そしてその花魁に起きたある騒ぎを個性のある登場人物達がそれぞれの視点で考察しています。私が読み進める中で面白いと感じたのは、吉原の中に渦巻く駆け引きや欲望、苦しみが登場人物の話を通して、明確に読み取れるところです。個人的に良いと思った表現は「卵の四角と女郎の誠は無いもの」という表現で、吉原を一言で表していると思いました。また、物語の中心である花魁の人物像が徐々に明らかになる様子も興味深かったです。古典的かつ直接的な表現の多いこの小説、「吉原」について興味のある方には、ぜひ読んでいただきたい一冊です。

上記の図書は図書館で所蔵しています。ぜひご利用ください。

令和6年度 図書館報告

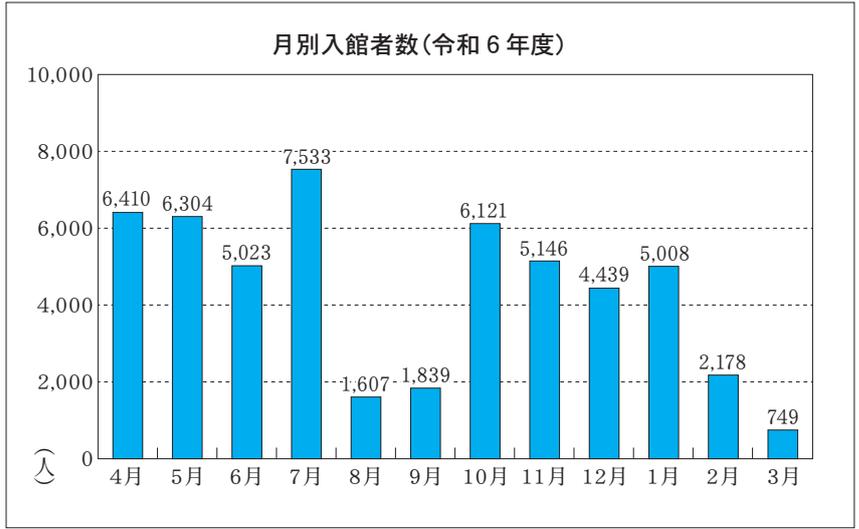
資料の構成

(令和7年3月31日現在)

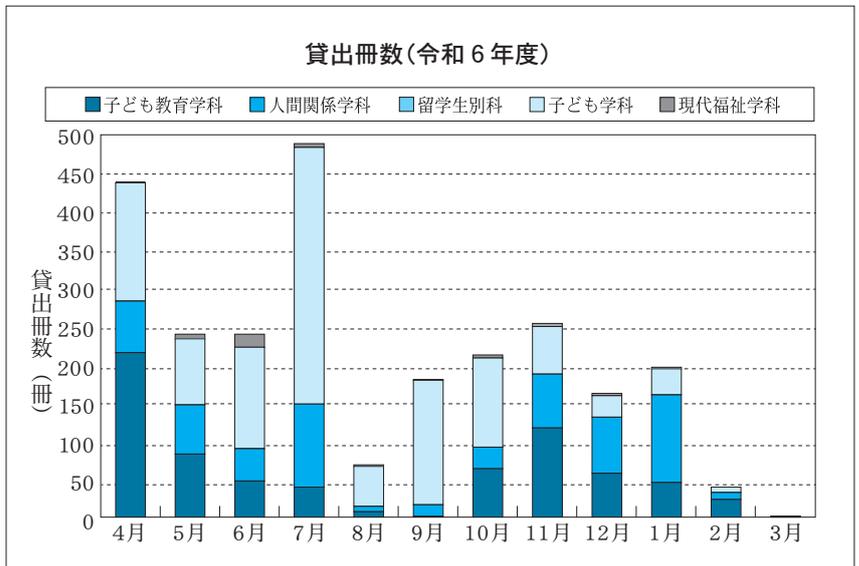
1. 図書	蔵書数	129,513冊
	年間受入冊数	467冊
2. 雑誌	所蔵雑誌種数	233種 (内国誌 189種, 外国誌 44種)
	年間受入雑誌種数	98種 (内国誌 90種, 外国誌 8種)
3. その他	新聞種数	11種 (内国誌 7種, 外国誌 4種)
	視聴覚資料 所蔵数	1,591点
	データベース	Academic Search Elite, PsycINFO, 国立国会図書館デジタル化資料サービス, 医中誌web, 朝日新聞クロスサーチ, 河北新報データベース, 山形新聞記事データベース

利用状況

- 開館日数 252日
(参考: 令和5年度 237日)
- 入館状況
 - 月別入館状況
入館者数(延べ数) 52,357人
 - 一日平均入館者数 207人
- 館外貸出状況
 - 学科・月別館外貸出冊数
年間貸出冊数 2,516冊
〔参考: 令和5年度 2,998冊
: 令和4年度 3,490冊〕
 - 一人当たりの年間貸出冊数推移
参考



	令和6年度	令和5年度	令和4年度
子ども教育学科	3冊	3冊	4冊
人間関係学科	3冊	3冊	3冊
留学生別科	0冊	0冊	0冊
子ども学科	9冊	6冊	10冊
現代福祉学科	2冊	1冊	1冊
本学平均	4冊	3冊	5冊



サービス提供状況

- 相互協力業務
(他大学から文献取り寄せ・または提供する件数)
図書借受冊数 2冊
(参考: 令和5年度 2冊)
図書貸出冊数 0冊
(参考: 令和5年度 4冊)
複写取寄せ件数 25件
(参考: 令和5年度 30件)
複写提供件数 1件
(参考: 令和5年度 1件)
- 学内文献複写 複写枚数 110枚
(参考: 令和5年度 836枚)
- 学内参考業務 受付件数 111件
(参考: 令和5年度 163件)
- 貸出ノートPC 貸出件数 436件
(参考: 令和5年度 502件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子ども教育学科	214	82	47	39	7	1	63	116	57	45	23	0	694
人間関係学科	67	64	42	108	7	15	28	70	73	114	9	1	598
留学生別科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子ども学科	154	86	132	334	52	162	116	62	28	34	7	0	1,167
現代福祉学科	13	6	17	5	2	1	4	4	3	2	0	0	57
計	448	238	238	486	68	179	211	252	161	195	39	1	2,516